

第6次南伊豆町総合計画について

1 現計画の振り返り

(1) 計画期間 平成22年から平成31年（10年間）

(2) 目指す方向性（将来像）

「次世代（みらい）につなぐ 光と水と緑に輝く南伊豆町」
～ひとにやさしく 自然にやさしく 未来につなぐまちづくり～

(3) 基本理念

- ・「ひとが動き、まちが動く」協働によるまちづくり
- ・「雄大な自然を守り、恩恵にあずかる」自然と共生のまちづくり
- ・「まちの魅力を全国に発信する」地域ブランド創造のまちづくり

(4) 基本目標

- ・「安心・元気・豊かさ」があふれるまちづくり
- ・優美な自然を生かした観光と交流のまちづくり
- ・地域・自然の恩恵を生かしたまちづくり
- ・地域を担うひとづくりと町の歴史・文化を継承するまちづくり
- ・人、町、自然が共生する快適でぬくもりのあるまちづくり

(5) まちづくりを進めるうえでの課題

- ・人口減少社会への対応
- ・少子高齢化に対応した福祉・医療の充実
- ・産業の活性化と就業の場の確保
- ・次代につなぐ美しい景観と豊かな自然の保存
- ・町へのアクセス、町内の移動手段の改善
- ・町民との協働によるまちづくりの推進
- ・自立した自治体経営の推進

(6) 取組に対する評価

- ・人口減少社会への対応
 - ▶住民アンケートから…全体項目から、人口減少対策の要素となる項目として、健康づくり、高齢者福祉、上下水道などの生活環境面では比較的満足度が高く、医療、就業、所得、情報化、公共交通、防災面において不満度が高い。また、子育て環境、教育、自然環境においては意見がきつ抗している

▶職員意識調査から…取組の優先度、重要度が最も高く、やや不満度が高い

・少子高齢化に対応した福祉・医療の充実

▶住民アンケートから…健康づくり、高齢者福祉では比較的満足度が高いが、医療、障がい者福祉、低所得者対策では不満度が高い、また、子育て環境、教育においては意見がきつ抗している

▶職員意識調査から…取組の優先度、重要度、満足度ともに比較的高い

・産業の活性化と就業の場の確保

▶住民アンケートから…満足度が低く、特に商工業、就業面では不満度が高い

▶職員意識調査から…取組の優先度、重要度は高いが、満足度は比較的低い

・次代につなぐ美しい景観と豊かな自然の保存

▶住民アンケートから…自然環境の面では、満足度、不満度がきつ抗している。また、自然環境の観光資源活用では不満度が高いと推測できる

▶職員意識調査から…取組の優先度、重要度は比較的低く、満足度は規格的高い

・町へのアクセス、町内の移動手段の改善

▶住民アンケートから…不満度が高い。特に公共交通の面において不満度が高い

▶職員意識調査から…取組の優先度、重要度はどちらかという高いといえ、概ね満足できているといえる

・町民との協働によるまちづくりの推進

▶住民アンケートから…広報などでは満足度が高いものの、協働、透明性などでは不満度が高い

▶職員意識調査から…取組の優先度、重要度、満足度ともに高くも低くもない

・自立した自治体経営の推進

▶住民アンケートから…不満度が高い

▶職員意識調査から…最も優先度、重要度が低く、満足度も高くない

(7) 現計画の振り返り

目指す方向性（将来像）から、地域の資源（ひと・もの・こと）を未来につないでいくためのまちづくりを進めていくことを基本としており、「協

働」、「自然との共生」、「地域の魅力（環境、文化、暮らしなど）創造」による地域づくりを進めていくこととしている。

7項目の主な課題については、克服されたといえるものではなく（又は同様の項目の中で新たな課題が発生している。）、次期計画においても引き続き課題として捉えておく必要がある。なお、住民の意識と職員の意識において乖離がみられる部分があることについては、より深い検討が必要となる。

なお、人口減少については、対策と対応の両面からのアプローチが必要となるほか、人口減少によって生じる新たな課題（担い手不足、住環境の悪化、行政の財源不足、インフラの維持存続など）が考えられ、そのほかにも埋もれていた課題や新たな課題として、教育、情報化・新技術への対応、省エネルギー・省人力化、景観・環境対策、災害対策、行政運営の面では、政策の一元化・重点化、他自治体との連携、地域経営思考の導入などがある。

そのため、行政としては、政策の重点化、データ等に基づく正確な課題把握・共有、施設や事業の効率化、効果検証、（行政と住民、住民間、行政内部での）役割の明確化を図る必要があり、これらに伴う予算・人員の適正な配分や配置、統一された認識による行政運営を行うための組織の見直しが必要となる。

2 第6次総合計画策定における論点等

- (1) 計画期間 令和2年(2020年)から令和11年(2030年)(10年間)
※まちづくりの方向性(将来像)、将来人口については、令和41年(2060年)を設定するものとし、計画期間中の短期目標(見直し時期)は、2年後(令和3年度)、6年後(令和7年度)に設定する。
- (2) 目指す方向性(将来像)
基本的には現計画を引き継ぐものとするが、新たな計画の内容を反映する必要がある。また、南伊豆町民憲章(昭和60年7月制定)は、まちづくりの変わらぬ理念であることから、町民憲章を強く意識する必要がある。

【第5次総合計画における将来像】

「次世代(みらい)につなぐ 光と水と緑に輝く南伊豆町」
～ひとにやさしく 自然にやさしく 未来につなぐまちづくり～

【南伊豆町民憲章】

「伊豆半島の南端にあるわたくしたちのまちは、太平洋のおおうなばらを三方に望み、美しい山々を背にした、湯の香ただよう平和の里です。

この恵まれた郷土に限りない愛情と誇りを持ち、更に豊かで住みよいまちをつくるために南伊豆町民憲章を定めます。

- 一 マーガレットのように美しく清らかなまちをつくりましょう。
- 一 ウバメガシのようにたくましく長寿のまちをつくりましょう。
- 一 灯台の光のように明るく夢のあるまちをつくりましょう。
- 一 湯けむりのように高く仰ぐ文化のまちをつくりましょう。
- 一 山の緑のようにうるおいと活力のあるまちをつくりましょう。

(3) 基本理念

南伊豆町のまちづくりにおける普遍的な理念であることから、基本理念には南伊豆町民憲章の考え方を取り入れることが考えられる。

(4) まちづくりを進めるうえでの課題

第5次計画から引き継がれた課題として、次のものがあげられるとともに、新たな課題についての検討が必要

- ・人口減少社会への対応（対策及び対応）、人口減少を要因とした課題
 - ・（人口減少と）少子高齢化に対応した福祉・医療の充実
 - ・産業の活性化と就業の場の確保（担い手の確保）
 - ・次代につなぐ美しい景観と豊かな自然の保存（活用）、環境対策
 - ・町へのアクセス、町内の移動手段の改善（改革）
 - ・町民との協働によるまちづくりの推進（町民主体）
 - ・自立した自治体経営の推進（行政組織の改革と将来を見据えた地域経営）
- 埋もれていた課題や新たな課題
- ・教育の振興
 - ・災害対策
 - ・インフラ（ハード・ソフト）の維持存続
 - ・情報化・新技術への対応
 - ・省エネルギー・省人力化の取組
 - ・他自治体等との連携

また、これらの課題解決にあっては、将来像の設定と共有、優先度や重要度の設定、世界的な流れや国、他自治体の動向などを認識する必要があり、比較的近い目標設定においては、地方創生の流れはもとより、「Society（ソサイエティ）5.0」、「SDGs」などの考え方を取り入れる。

(5) 基本目標

上記課題の原因を可能な限り突き詰め、それぞれの課題克服への取組を検討すること、また、それらを克服した姿を基本理念に照らし合わせ、基本目標を設定する。

(6) 実施計画

具体的な取組にあつては、各課題の要因分析に基づきそれらの要因を改善し課題克服に向けた大まかな取組と当初の2年間を中心とした具体的なプロジェクトを設定するとともに、町政運営のための個別計画との整合性を確保し、また、個別計画において定めるプロジェクトを実施計画上のプロジェクトに位置付けること（修正が必要な場合には適宜計画の見直しを行う。）とする。

(7) 計画の策定にあたり求めたい意見

- ・将来（2060年）の人口規模
 - …社人研の人口推計では、約4,000人、平成27年度策定の人口ビジョンでは、7,000人程度を維持することを目標設定
- ・将来（2060年）のまちの姿
 - …公共施設、産業、集落、景観、自然、生活環境、医療、福祉など（理想/現実…ギャップが生じる要因など）
- ・理想的な将来像に近づけるために取り組むべき施策と考え方
 - …初期段階の取組、継続的な取組、行政の取組、住民の取組など
- ・政策、施策の優先度と重要度
 - …取り組むべき施策等の優先度や重要度、担い手など
- ・行政、住民の役割や責任
 - …住民の役割と責務、行政の役割と行政の運営指針など
- ・地域間の連携や合併
 - …課題を補い合うことのできる連携や強みを生かすための連携など